

## ◆新技術定着試験

# 金武漁協におけるハマフエフキ養殖試験

水産業改良普及センター本部駐在 平安名 盛正

### 1. 目的

平成18年度から始まった魚類養殖試験であるが、スギについては平成19年7月に類結節症で大量斃死したために、試験を断念し、残存ハマフエフキ(5,000尾を入れ生残2,815尾、歩留56%)を用いて、価格の違う餌料の魚の成長への影響を比較試験した。

### 2. 材料及び方法

平成19年11月8日に

A生簀1,500尾(平均体長207.0mm 体重179.6g)

B生簀1,315尾(平均体長198.8mm 体重167.7g)

に分けた。

同年11月13日に両生簀を各々沖縄電力沖縄プラント工業金武事務所沖合に移設し、A生簀をサンプルA餌料(以下SAという) B生簀をサンプルB餌料(以下SBという)を使用し試験を開始した。

### 3. 経過及び結果

平成20年2月19日2回目の測定を実施。

A生簀平均体長225.84mm 平均体重286.6g

B生簀平均体長228.64mm 平均体重262.9g

両生簀の成長においては、体長、体重ともに成長差はみられなかった。

平成20年5月8日に3回目の測定を実施。

A生簀平均体長251.5mm 平均体重337.2g

B生簀平均体長256.9mm 平均体重341.9g

平成20年7月9日に4回目の測定を実施。

A生簀平均体長268.8mm 平均体重390.5g

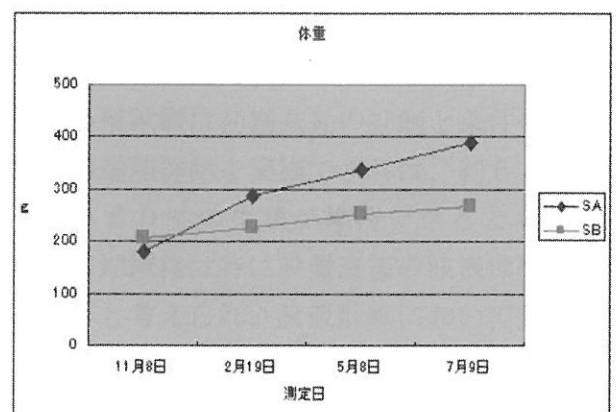
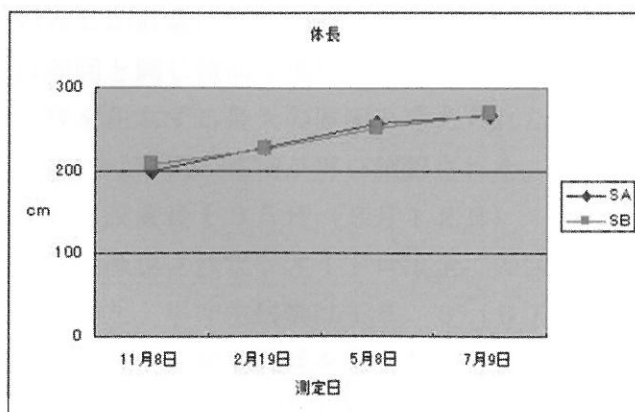
B生簀平均体長267.3mm 平均体重376.2g

両生簀の成長において、餌料の違いによる成長差はみられず、ほぼ同じであった。

今回の試験結果では、価格の違う餌料の養殖魚の成長への影響は確認できなかった。

### 4. 問題点

金武での養殖試験における問題点としては、沖縄電力沖縄プラント工業金武事務所沖合の養殖漁場が東風や南風が吹く場合に、岸壁に打ち突けた返し波と次の波とで三角波が発生する。このため、給餌作業時に、小型の漁船ではかなり危険を伴う作業となっており、給餌作業が天候に左右される状況にある。また、沖合に出した生簀を台風時期の5月～6月には港内に移設し、11月頃に沖合に出す作業が必要となり、労力と時間が必要となる課題がある。平成20年度8月末をもって試験は終了となる。今後は、平均1kgまで比較試験を継続しながら、課題について漁協と対応策を見出していきたい。





網を揚げ、タマンを追い込み



曳航中



タマン測定



生け簀設置作業



生け簀移設作業開始



設置完了